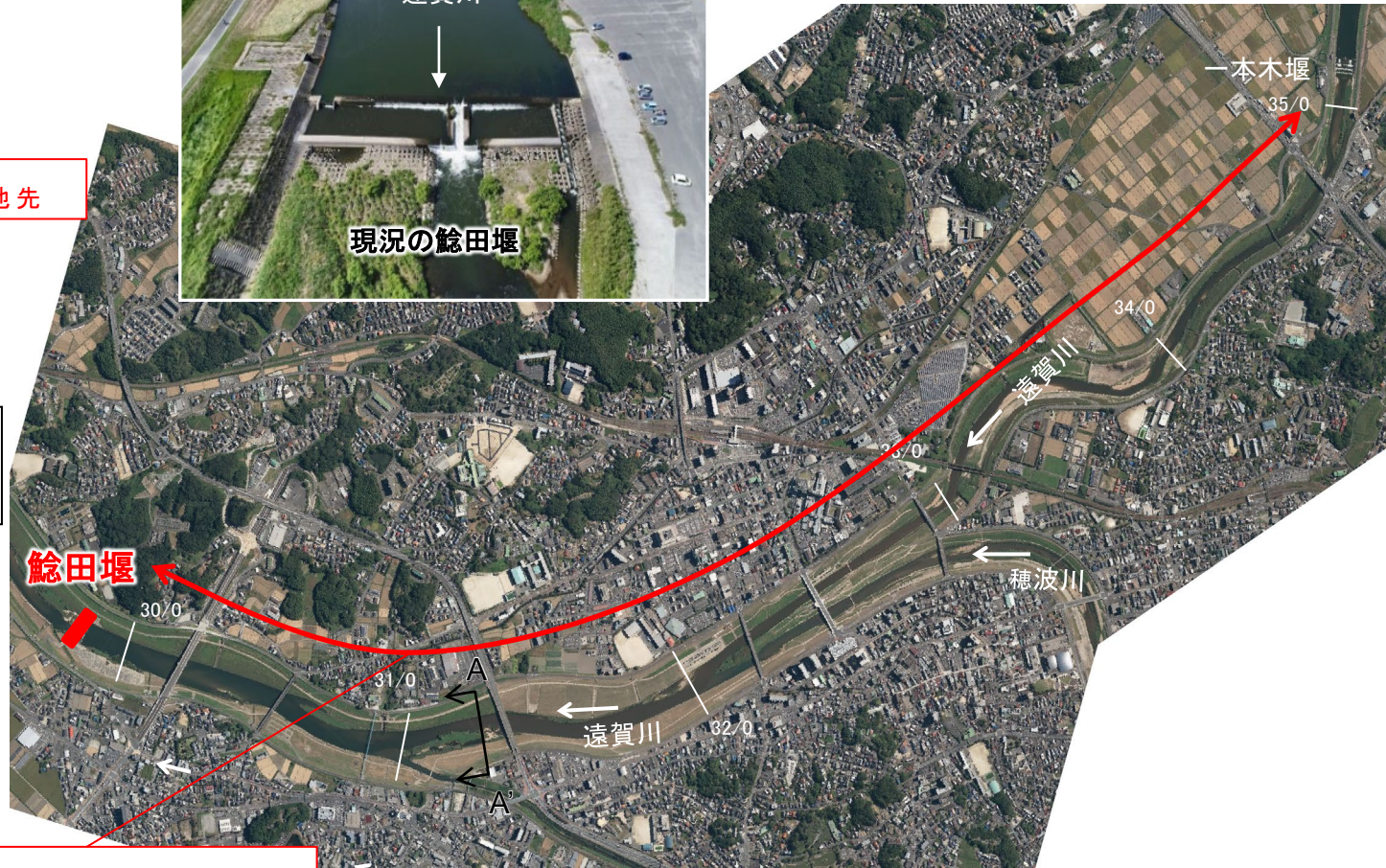
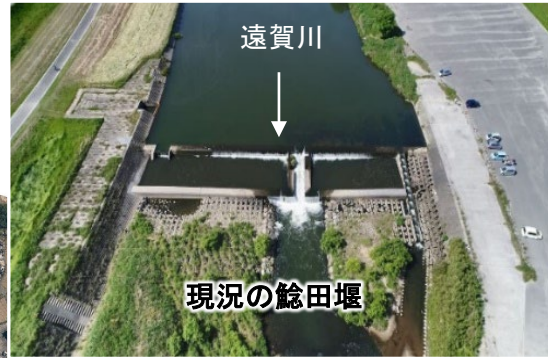
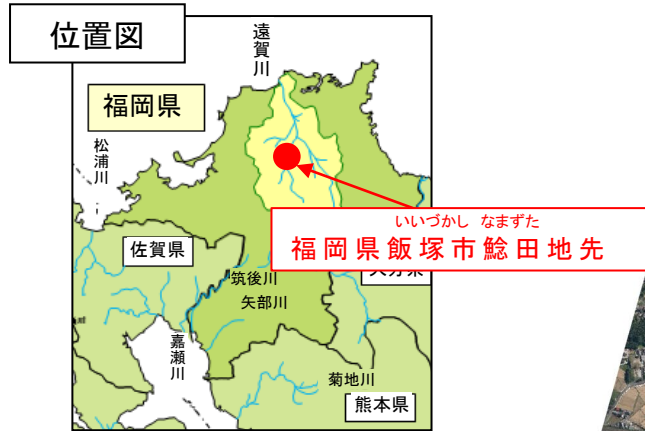


■遠賀川水系では、平成30年7月豪雨で内水による浸水被害が発生。その対応として、遠賀川の河道掘削及び庄司川排水機場の増設を進めており、令和6年度で完了する見込みであるが、固定堰である鯰田堰が流下阻害となっており、堰上流部の水位上昇の要因となっている。

■鯰田堰を改築することで、本川の水位が低減されることに加え、飯塚市街部におけるその他の支川の安全な流下及び内水被害対策にも寄与することができる。



令和7年度
実施内容：根継ぎ(護岸) 等

事業費：2,038百万円

※遠賀川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

令和7年度当初予算実施箇所
根継ぎ(護岸)等

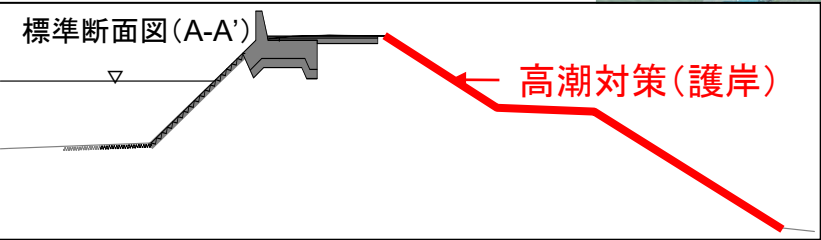
- 矢部川中島地区は、高潮区間において最も堤防高が低い箇所の一つであり、九州の西方海上を伊勢湾台風規模の台風(昭和34年9月台風14号)が通過した場合に想定される高潮に対して、安全性が確保できるよう川裏護岸を整備する。
- 令和7年度に堤防整備を実施することで、当該地区の高潮対策が完了予定。



事業費：811百万円

※矢部川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

令和7年度実施内容
高潮対策(護岸)等



凡例	
令和6年度まで	■
令和7年度実施	■



■筑後川水系巨瀬川では、令和5年7月豪雨により堤防越水や護岸崩壊が複数箇所が発生し、浸水家屋3,181戸、浸水面積1,690haの甚大な被害が発生。

■緊急対策特定区間に設定し、緊急的に築堤及び河道掘削等の河川整備を実施することにより、令和5年7月豪雨と同規模の豪雨に対する被害の軽減を図る。



事業費：4,423百万円

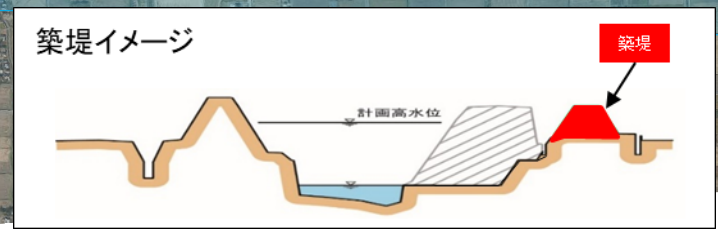
※筑後川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

- 令和7年度実施内容
- 橋梁改築 1基
 - 樋管改築 4基
 - 築堤 L=300m 等

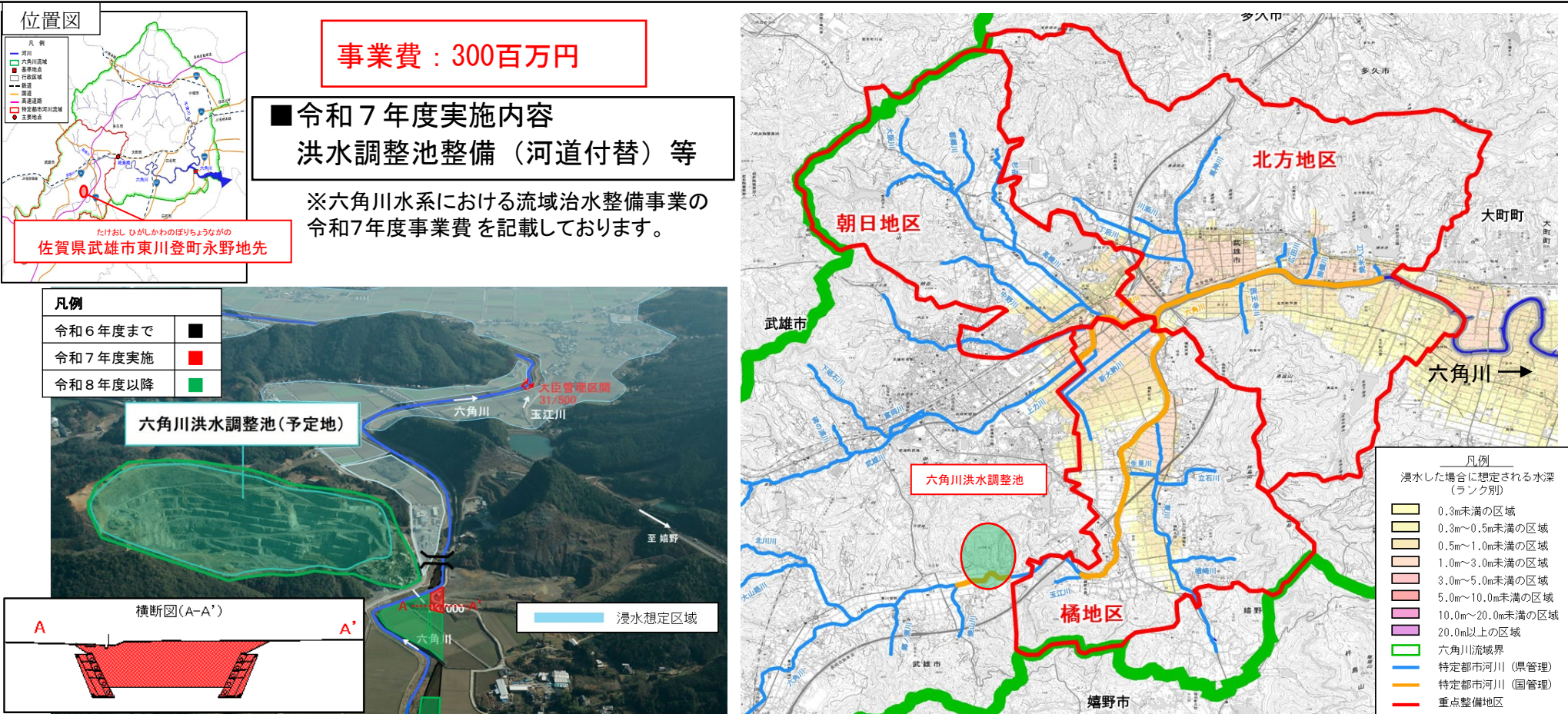


平面図

：R5.7豪雨浸水実績



- 六角川では、令和3年8月出水などによる浸水被害を受け、令和5年3月に特定都市河川に指定。
- 令和7年3月に策定した六角川流域水害対策計画の中で、重点整備地区として北方地区、朝日地区、橘地区の3地区を位置づけ、調整池や支川改修、住まい方の工夫など佐賀県・武雄市と連携して内水に対しても浸水被害軽減を図る。
- 六角川上流において、洪水時に河川水を一時的に貯留し河川水位を低下させることで外水被害のリスク低減を図る六角川洪水調節池の整備を予定している。令和7年度は、引続き関連する河道付替の整備を行う。



■六角川水系では、令和3年8月の出水により浸水家屋3,307戸等の大規模な浸水被害が発生した。令和5年3月に特定都市河川の指定を行い、本年3月に流域水害対策計画を策定している。

■本事業により河道拡幅や遊水地整備（甘久川^{あまぐがわ}）、雨水貯留浸透施設整備（新大納川^{しんだいのうがわ}）等を実施し、令和3年8月の出水と同規模の降雨に対して、床上浸水被害の解消を図る。

位置図



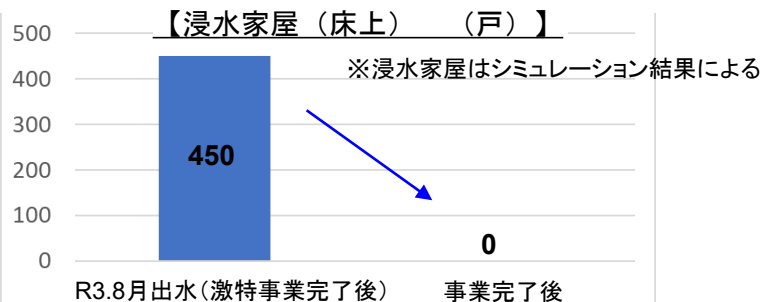
令和3年8月出水による被害状況



浸水面積：約5,407ha
床上浸水：1,248戸、床下浸水：2,059戸

事業の効果

流域水害対策計画に基づく国、県、武雄市が一体となって浸水対策を実施することにより、令和3年8月出水と同規模の降雨に対して、床上浸水被害を解消。

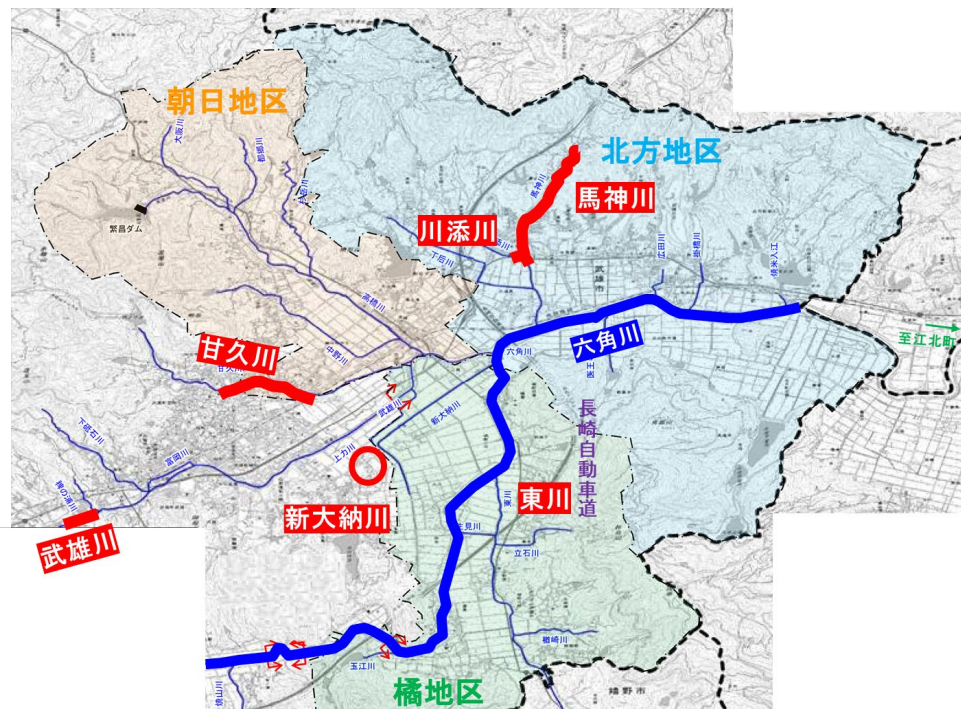


令和7年度実施内容

（佐賀県：甘久川）詳細設計、地質調査
（武雄市：新大納川）詳細設計、用地買収

事業費：150百万円

※事業費：当該年度の事業費を記載しています。



■令和元年8月洪水により甚大な被害を受けた六角川水系において、令和元年8月洪水の水位を計画高水位以下に低減させ、洪水被害の防止を図るため、遊水地、河道掘削等の河川整備を推進している。

■令和7年度予算により牛津川遊水地の周囲堤整備にかかる用地取得を進めるとともに、周囲堤整備及び周囲堤基盤整備を実施する。

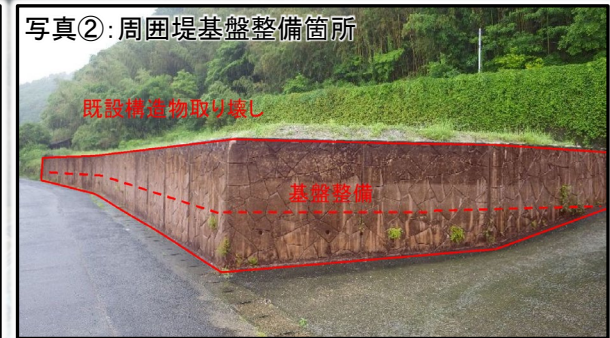


事業費：4,157百万円

※六角川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

凡例	
令和6年度まで	■
令和7年度実施	■
令和8年度以降	■

■令和7年度実施内容
遊水地整備（遊水地周囲堤整備、遊水地基盤整備、用地取得）等



■事業概要

○場所 佐賀県神埼市（筑後川水系城原川）

○目的 洪水調節

○諸元 堤高：約60m 総貯水容量：約3,550千m³

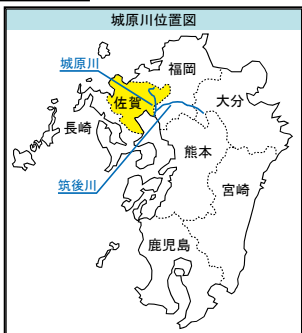
○経緯 昭和54年度 実施計画調査着手
平成30年度 建設事業着手

○事業効果 ダムによる洪水調節を行い、ダム下流域の治水安全度の向上を図る。

■洪水被害の軽減を図る洪水調節専用のダム

位置図

城原川位置図



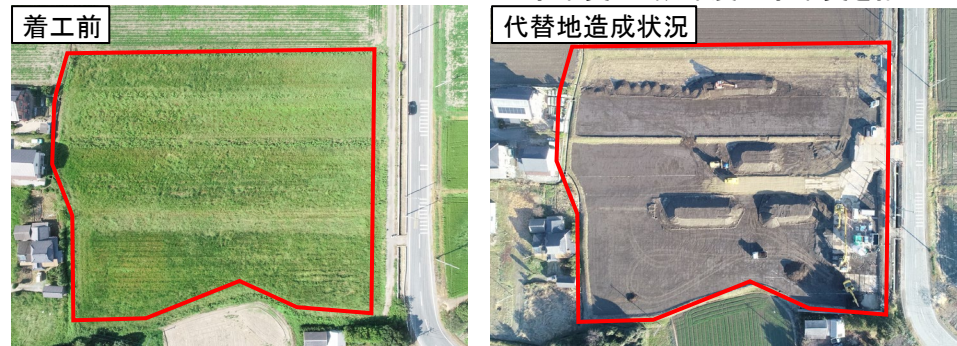
凡 例	
	鉄道
	高速道路
	主要道路
	県界
	市町村界
	城原川流域
	主要地点
	国管理区間



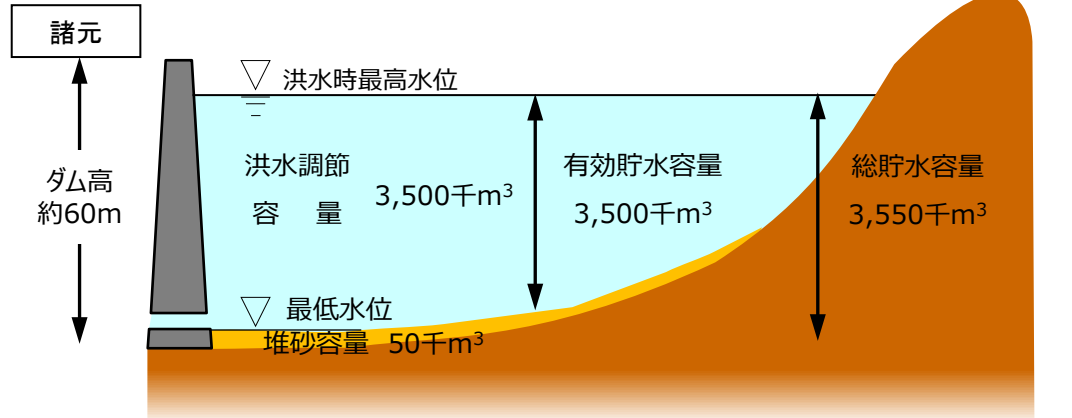
■令和7年度実施内容
本体関連の調査・設計
用地補償 等

事業費：1,121百万円

※事業費：当該年度の事業費を指します
代替地造成状況



着工前



■佐賀導水路は、近年、不具合が頻繁に発生していることから、出水時において安定的に施設機能が発揮できないおそれがあるため、施設の抜本的改良、高度化及び耐震対策を行うための堰堤改良事業により、信頼性の向上を図る。

事業費:284百万円

※事業費:当該年度の事業費を記載しています。

令和7年度実施内容

ポンプ場施設整備 1式

ポンプ更新設計 1式

耐震対策設計 1式



巨勢川調整池



ポンプ更新設計(東漕系)



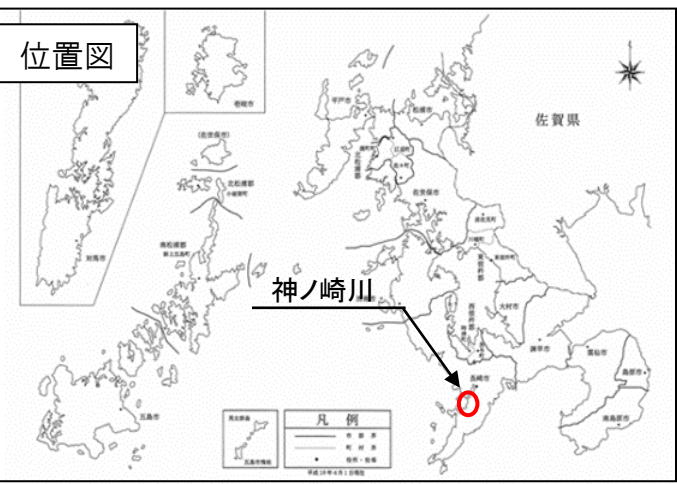
筑後川吐出樋管

耐震対策設計(筑後川吐出樋管)



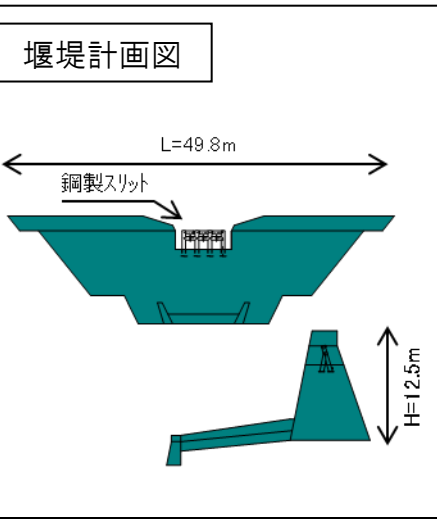
ガスタービンエンジン(既設)

- 当該事業箇所は土砂災害特別警戒区域に指定され、流域内全体に荒廃が進んでいるため土石流の発生が懸念される。
- 流域内に砂防施設は整備されておらず、土石流発生時の被害が甚大なものになると予想されるため、本事業において砂防施設を整備することで土砂災害を未然に防止することができる。



事業費：30百万円

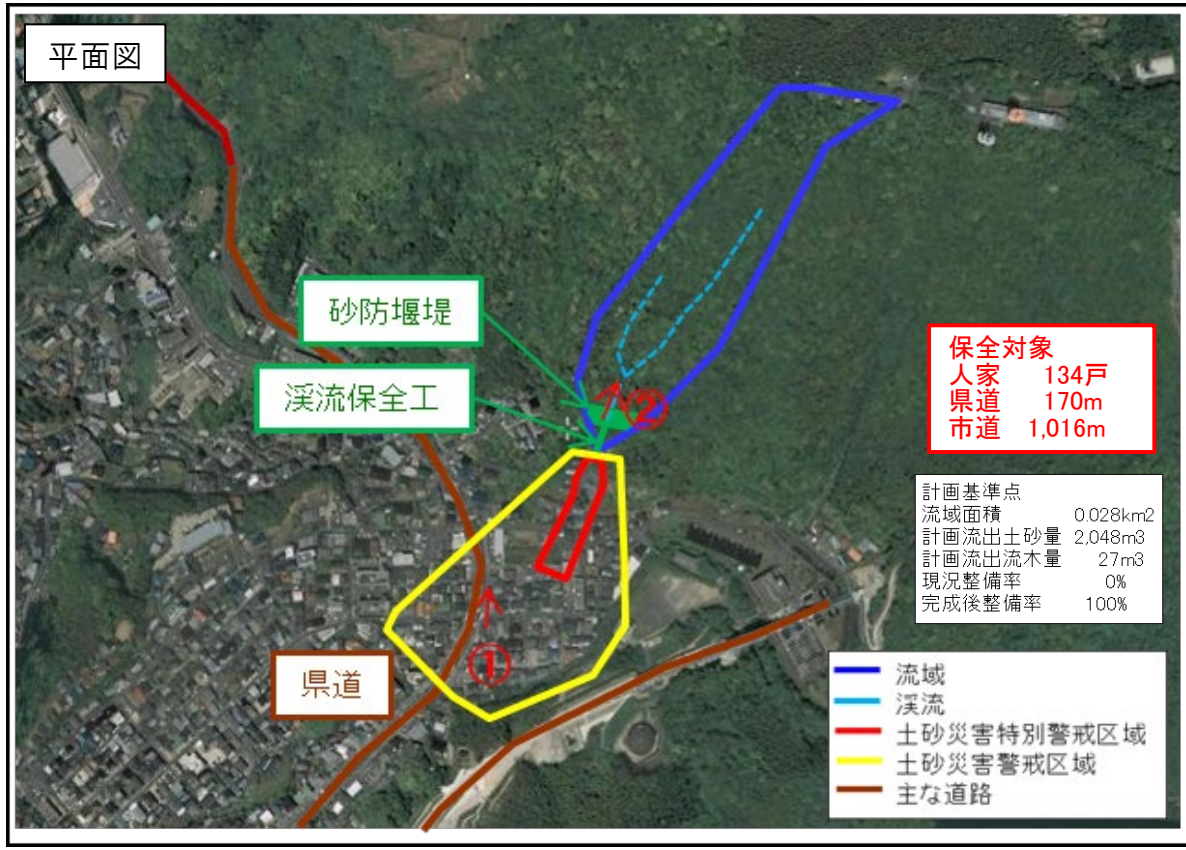
※事業費：当該年度の事業費を記載しています。



① 県道235号線（保全対象）



② 溪流の荒廃状況



■事業概要

○場所

○目的

○諸元

○経緯

○事業効果

長崎県諫早市

（本明川水系本明川）

洪水調節

流水の正常な機能の維持

堤高：約60.0m 総貯水容量：約6,200千m³

平成2年度 実施計画調査着手

平成6年度 建設事業着手

ダムによる洪水調節を行い、ダム下流域の治水安全度の向上を図る。また、下流河川の環境を維持するための水量を確保し渇水被害の軽減を図る。

■令和7年度実施内容

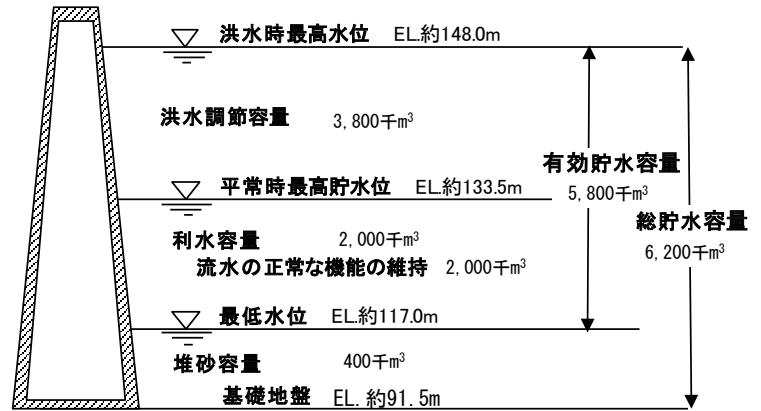
本体工事、管理設備検討 等

事業費：3,712百万円

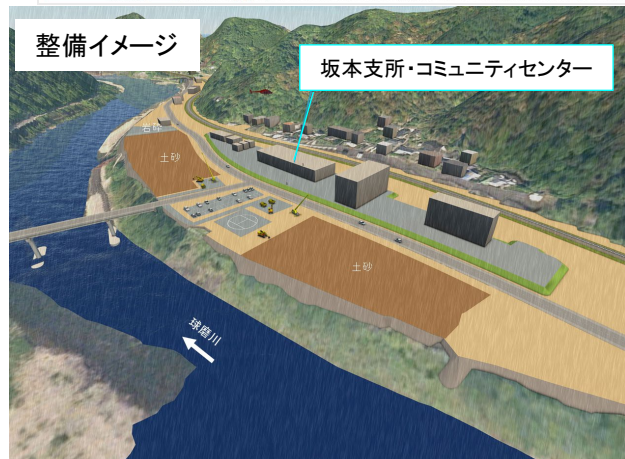
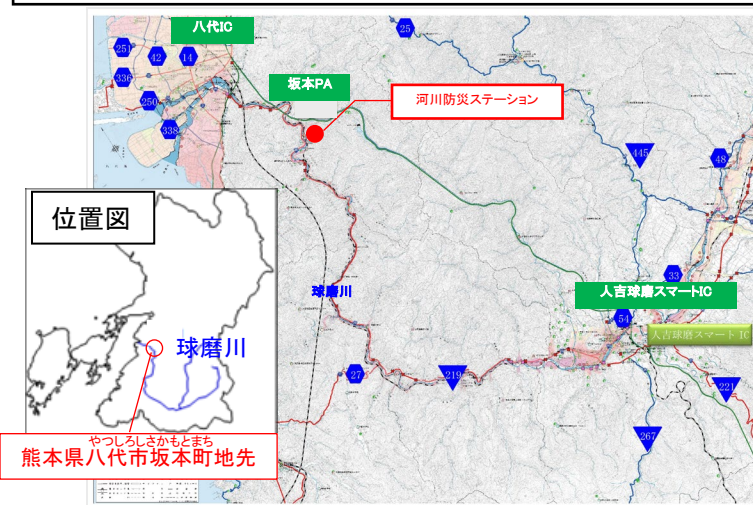
※事業費：当該年度の事業費を指します



諸元



- 球磨川中下流部の防災拠点として、八代市坂本地区において、令和5年度から河川防災ステーションの整備中
- 主要幹線道路である国道や高速道路(八代IC、坂本PA)が近接しており、復旧活動時の域外からの物資搬入が可能であるとともに、広域的な災害対応が可能。
- 緊急時の防災拠点や一時避難所としてだけでなく、宅地かさ上げと併せて実施する坂本支所の再建及び周辺整備により、川に親しむ交流拠点としての活用が期待できる。

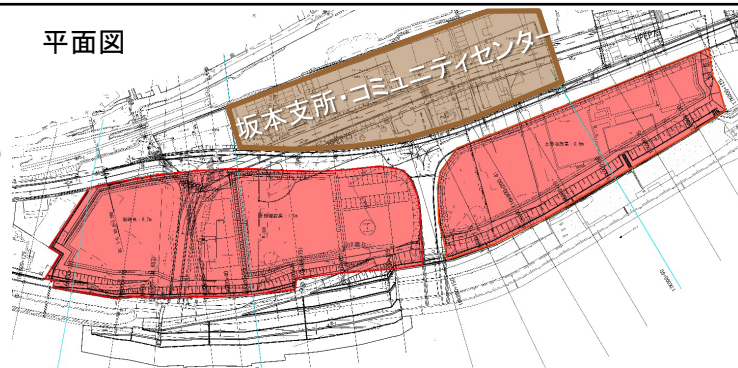


事業費：501百万円

※球磨川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

令和7年度実施内容
舗装工、排水工 等

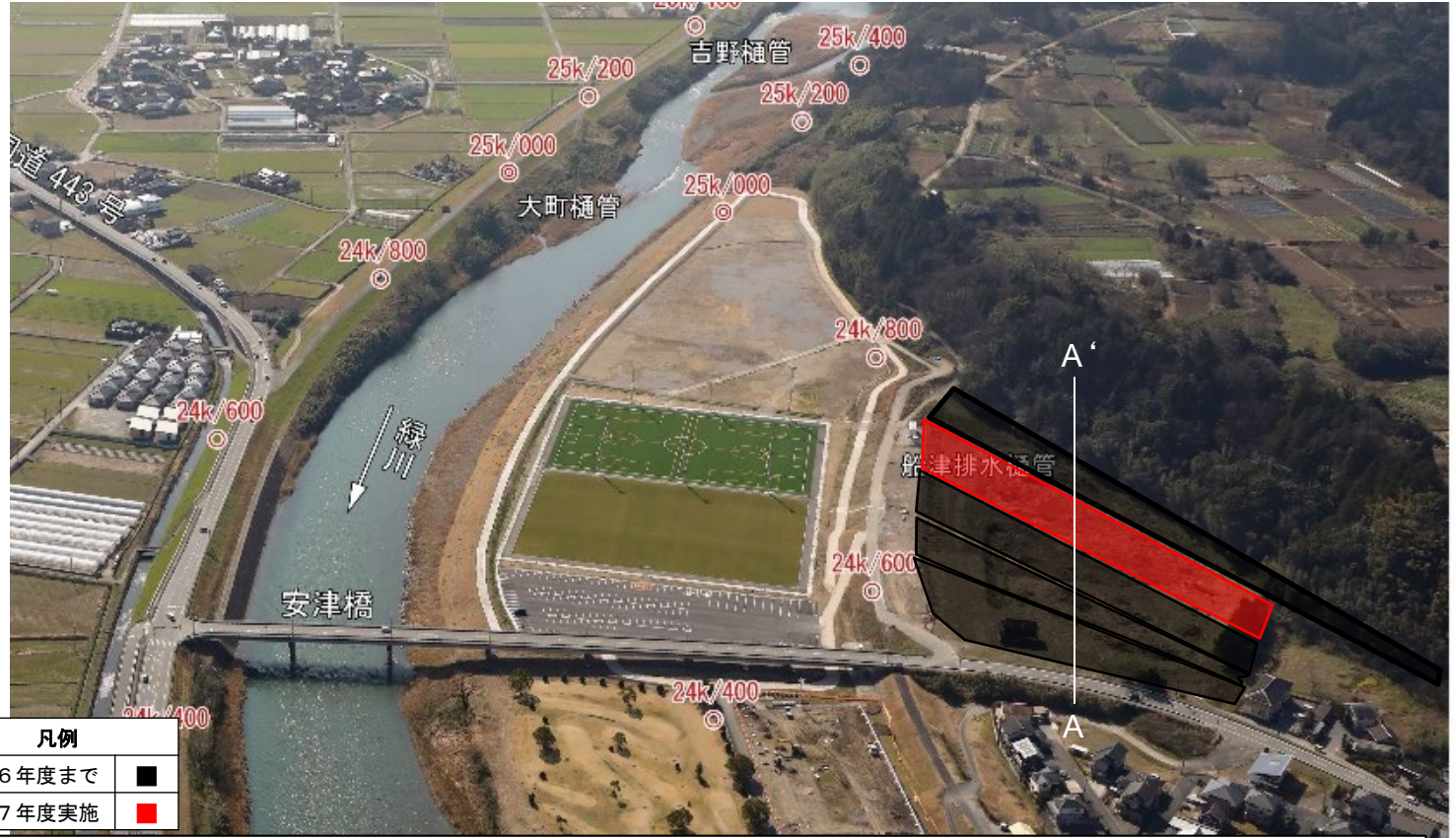
平面図



現地状況



- 緑川上流区間の水防機能強化を図るため、河川防災ステーションの整備しており、甲佐町が整備する水防センターと連携して、事業を実施している。
- 高水敷は、甲佐町でスポーツ施設を整備しており、平常時も利活用できるように整備を行っている。
- R7年度に基盤整備を実施することで、当該事業完了を図る。

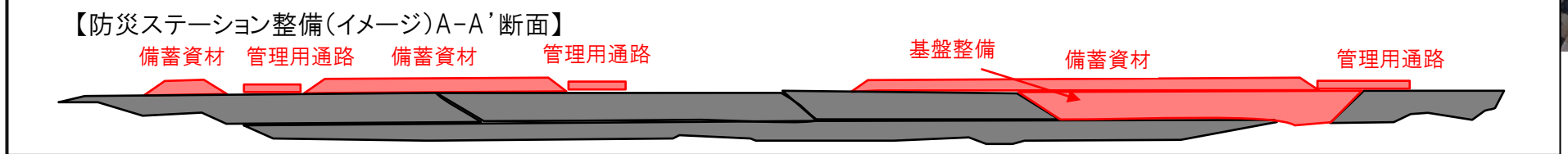


事業費：1,397百万円

※緑川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

■ 令和7年度実施内容
基盤整備 等

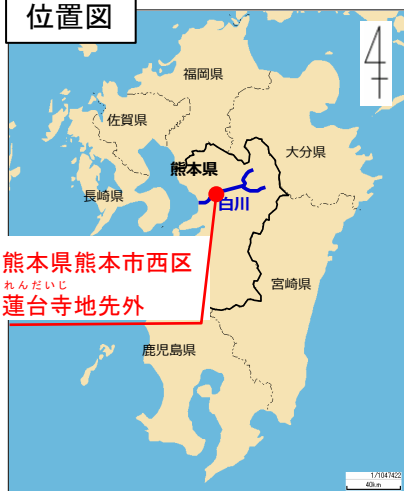
凡例	
令和6年度まで	■
令和7年度実施	■



■白川市街部の下流部に位置している固定堰群(3堰)は、洪水時の流下阻害となり、河川整備計画規模の洪水(2,400m³/s)に対して流下能力が不足している。併せて平成28年の熊本地震発生以降、上流からの土砂供給が増加し、土砂堆積が顕著となり、治水安全度が低下している。

■このことから、緊急対策特定区間を設定し、緊急的に堰改築(統合堰新設・旧堰撤去)及び河道掘削等の河川整備を実施することにより、熊本市中心市街部の治水安全度の向上を図る。

位置図



事業費：1,705百万円

※白川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

■令和7年度実施内容
統合堰新設(右岸部)等



井樋山堰
(撤去)

十八口堰
(撤去)

新堰
(統合堰)

三本松堰
(撤去)



川辺川ダム建設事業【直轄】

■事業概要

- 場所 熊本県球磨郡相良村（球磨川水系川辺川）
- 目的 洪水調節
- 諸元 堤高：107.5m 総貯水容量：約1億3,000万m³
- 経緯 昭和42年度 実施計画調査着手
昭和44年度 建設事業着手
令和4年度 球磨川水系河川整備計画を策定
- 事業効果 ダムによる洪水調節を行い、ダム下流域の治水安全度の向上を図る

■洪水被害の軽減を図る洪水調節専用のダム

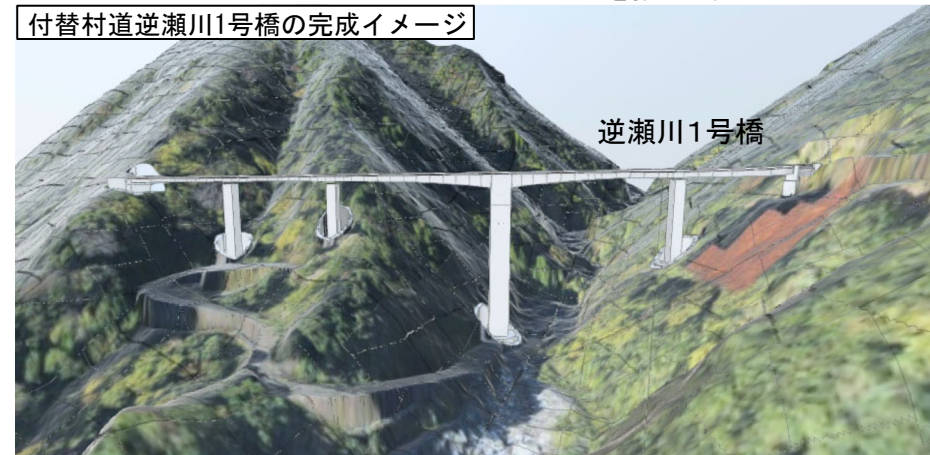
■令和7年度実施内容

ダム本体設計、付替道路工事、生活再建対策盛土工事 等

事業費：4,537百万円

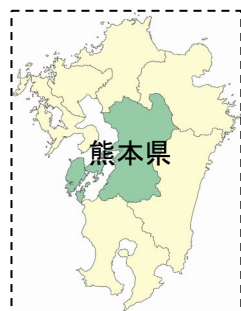
※事業費：当該年度の事業費を指します

付替村道逆瀬川1号橋の完成イメージ



逆瀬川1号橋

位置図



熊本県

菊池川

白川
緑川

球磨川

凡例

- : 河川
- : ダム
- : 流域

諸元

El282.5m

ダム高107.5m

洪水時最高水位
El280.0m

洪水調節容量
約119,000千m³

総貯水容量
約130,000千m³

堆砂容量
貯水池内盛土等
約11,000千m³

川辺川の流水型ダムのイメージ



緑川堰堤改良事業(緑川ダムリフレッシュ事業【直轄】)

■緑川ダムは、管理開始から54年経過しており、洪水調節容量内の堆砂が進行している状況であり、洪水調節機能に支障を及ぼすおそれがあるため、洪水調節容量内の堆積土砂を集中的に除去するとともに、恒久対策としての揚土栈橋等の整備を行うべく、堰堤改良事業により実施する。

事業費: 125百万円

※事業費: 当該年度の事業費を記載しています。

令和7年度実施内容

堆砂土砂掘削 1式

恒久対策設計 1式



貯水池堆砂状況



対策概要図



緑川ダム

■球磨川水系(川辺川)直轄砂防事業(八代市泉町、球磨郡五木村、球磨郡相良村)

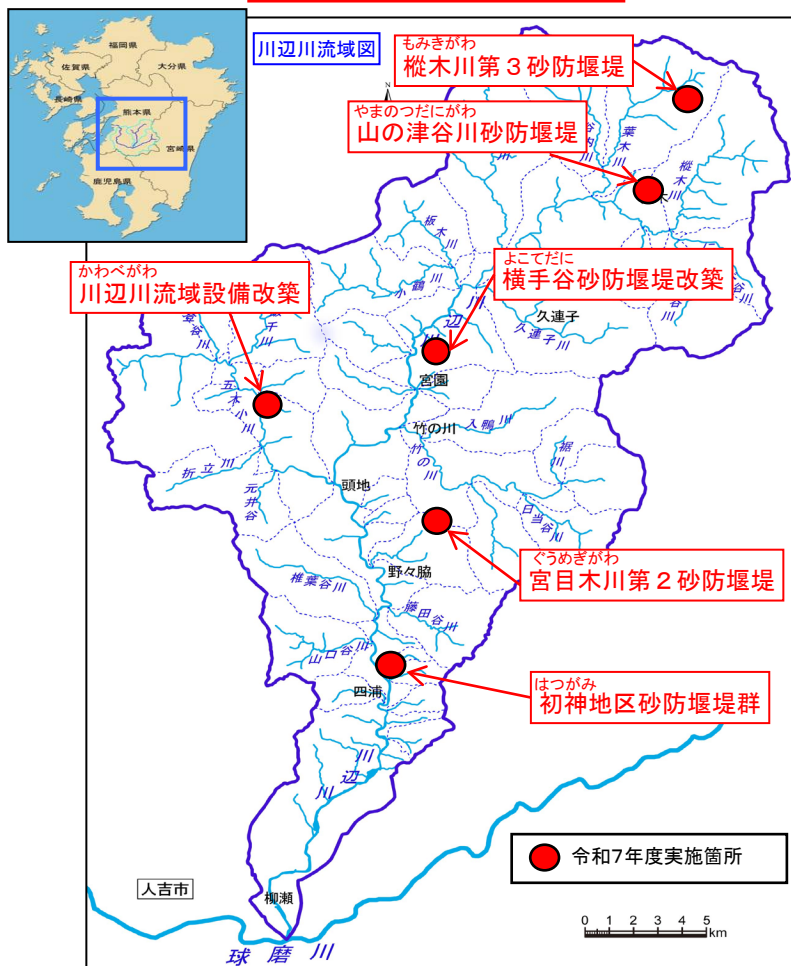
- 川辺川流域は、急峻な地形、脆弱な地質条件を有しており、多雨地帯でもあることから、これまで頻繁に豪雨により土砂災害を引き起こしており、近年では平成24年に土石流が発生し甚大な被害をもたらした。
- 豪雨時に発生する山腹崩壊や土石流等の土砂流出に起因する災害から流域住民の生命や財産を守るため、砂防設備を整備し、下流河川の河床上昇に伴う洪水被害及び人家・公共施設等に対する直接的な土砂災害を防止・軽減する。

R7実施箇所 計6箇所

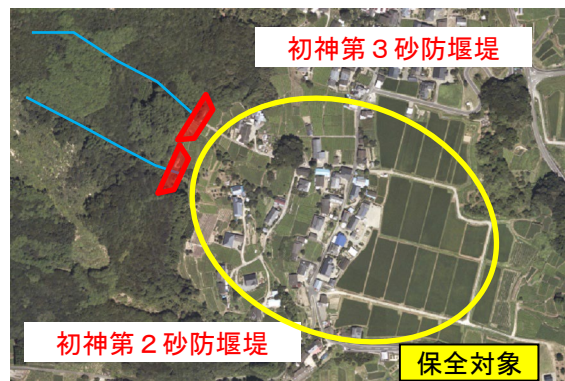
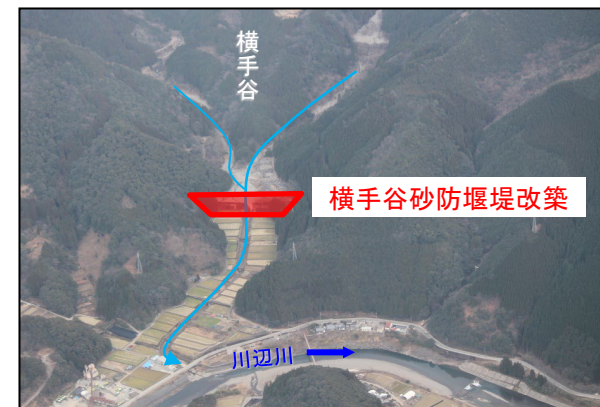
●令和7年度実施内容:砂防堰堤工 等

事業費: 774百万円

※球磨川水系(川辺川)における直轄砂防事業の令和7年度事業費を記載しております。



■代表実施箇所



■阿蘇山直轄砂防事業(阿蘇市、高森町、南阿蘇村)

○事業区域(阿蘇カルデラ内)では、平成28年熊本地震とその後の豪雨により土砂災害が発生しており、事業区域の溪流及び河川には依然として不安定な土砂が堆積していることから、砂防堰堤等の整備を行い、集落等への直接的な被害を防止・軽減するとともに、下流河川に流出する土砂量を低減し、土砂洪水氾濫による被害を軽減する。

●令和7年度実施内容:砂防堰堤工 等

事業費：1,977百万円

※阿蘇山における直轄砂防事業の令和7年度事業費を記載しております。

R7実施箇所 計12箇所

黒川カルデラ壁

黒川上流地区

【中央火口丘】

中央火口丘西部地区

【白川カルデラ壁】

高森地区

凡 例

- 事業区域の中で土石流の発生のおそれがあるエリア
- 本事業における主な施設整備予定地区
- 市町村界
- 主要河川
- 事業区域

令和7年度整備箇所

0 0.5 1 2 3 km

■代表実施箇所

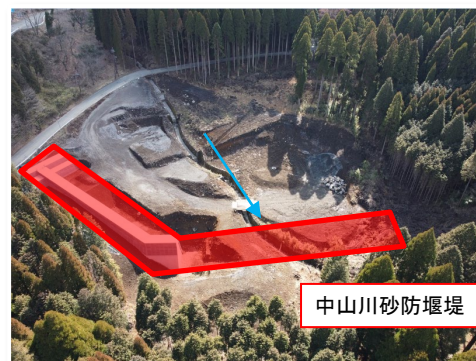
<位置図>



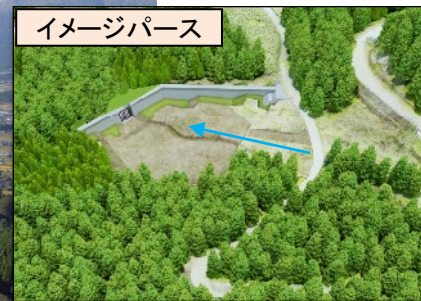
計画地点航空写真



中山川砂防堰堤



イメージパース



保全対象

【保全対象】

- ・人家 447戸
- ・国道
- ・県道 等

中山川砂防堰堤

- 大分川小野鶴地区及び国分地区周辺は、特定区間に指定されており国道210、国道10号やJR久大本線等の主要交通網を始め、大分県や大分市の庁舎といった防災拠点や賀来小中学校や賀来神社等の公共施設等があり、堤防が決壊した場合の影響は大きい。
- 当地区は観測史上最高水位を記録した令和2年7月豪雨により、内水による浸水被害が発生しており、河道掘削により流下能力を向上させ、再度災害防止を図る。

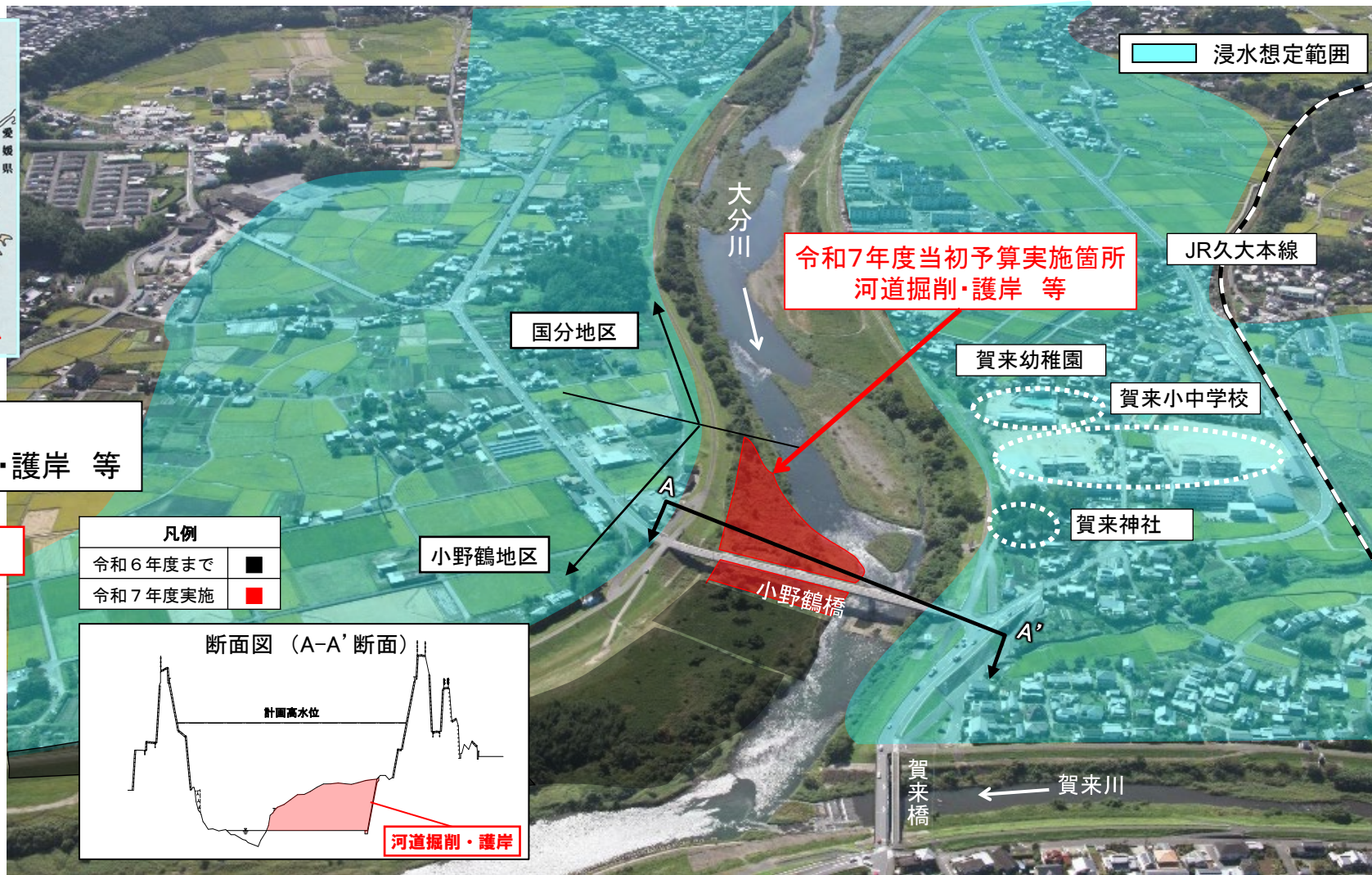
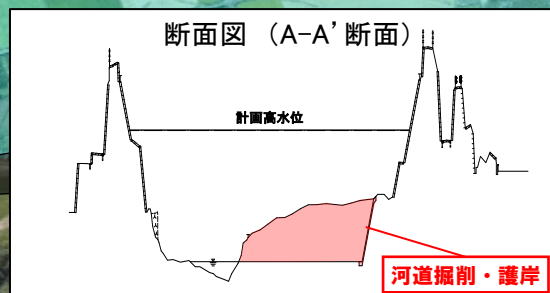


令和7年度
実施内容:河道掘削・護岸 等

事業費:645百万円

※大分川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。

凡例	
令和6年度まで	■
令和7年度実施	■



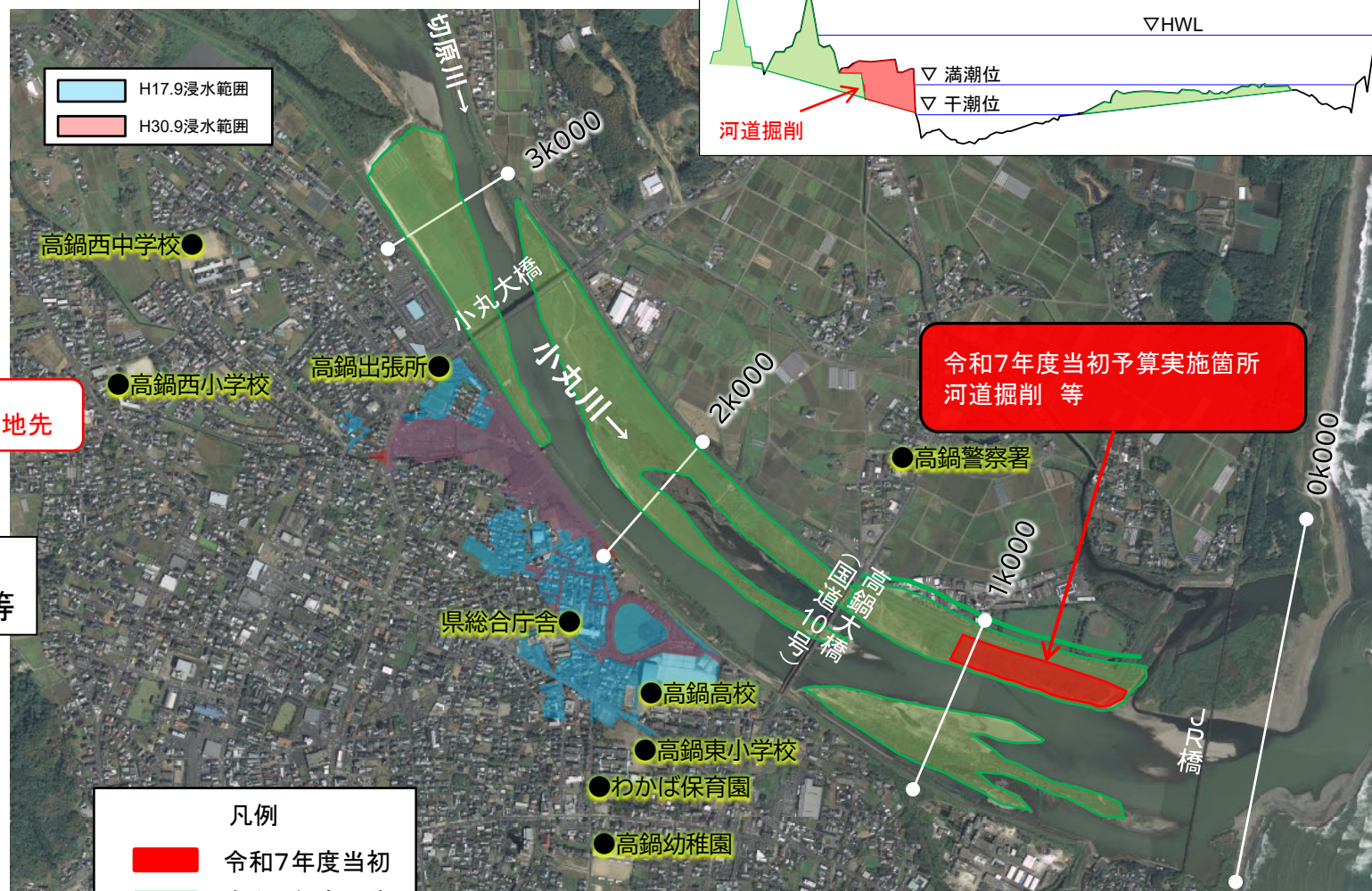
- 高鍋町は流域内で最も資産の集積する箇所であるが、近年(H17.9、H30.9)でも内水被害が発生している。また、令和4年台風14号出水では、観測史上最大である平成17年9月出水に次ぐ水位を記録し、計画高水位を超過した。
- 本事業は外水対策をはじめ、近年頻発している内水対策にも寄与する効果的な整備となる。



令和7年度
実施内容:河道掘削 等

事業費:180百万円

※小丸川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。



大淀川直轄河川改修事業(高岡地区堤防整備事業)【直轄】

完成

河川-22

○高岡地区(大淀川左岸22/000~22/400)は、背後地の利用状況等から、現況は自立式特殊堤防による整備がなされているが、耐震性能が満足できていないことや管理用通路がないことから、堤防断面を確保すべく堤防整備を行う。

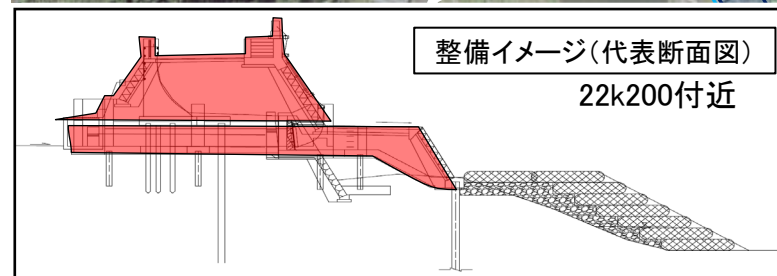
○なお、自治体において進められている内水対策事業と併せて総合的な治水安全度の向上を図る。



令和7年度
実施内容: 築堤 等

事業費: 1,091百万円

※大淀川水系における直轄河川
改修事業の令和7年度事業費を
記載しております。



○下方土地改良区が管理している下方井堰(農業用取水堰)は、昭和33完成後、約60年が経過し、水叩き部の空洞化など老朽化が進行。

○また、洪水時の流下を著しく阻害する堰として整備計画に位置付けられており、平成23年6月洪水では、堰上げによる水位上昇の影響もあり、堰上流で道路冠水や民家の孤立等浸水被害が発生。

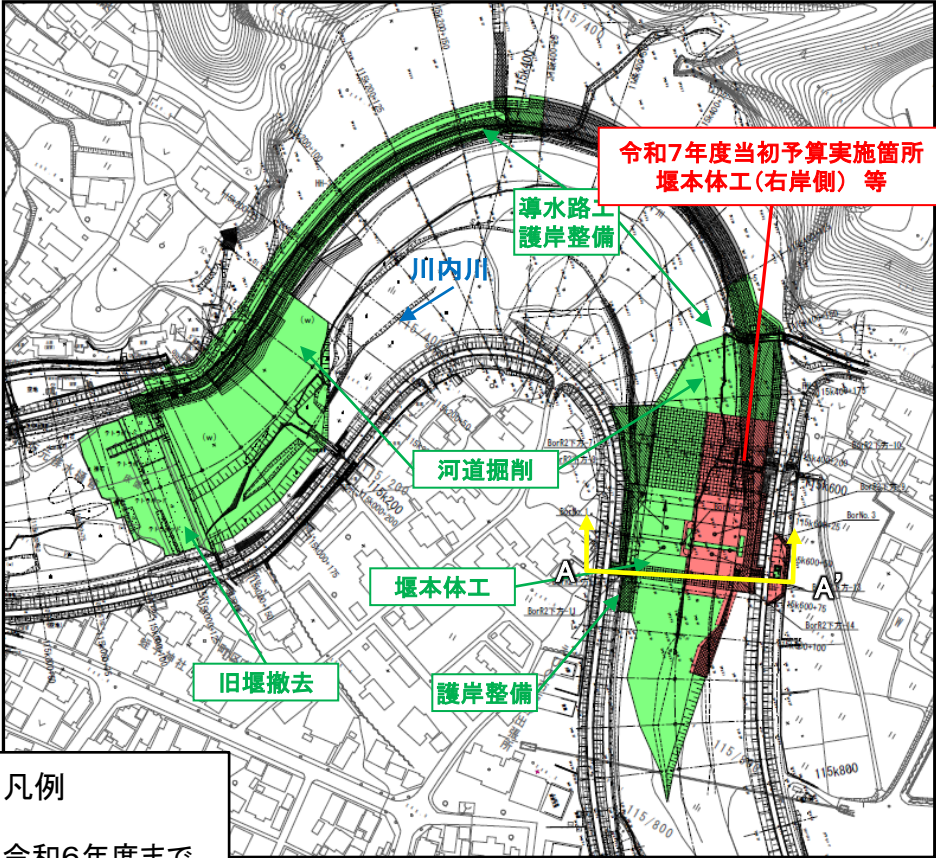
○令和7年度は、堰本体右岸側の本体工に着手し、早期に浸水被害の軽減を図る。



下方井堰の位置図、浸水想定範囲



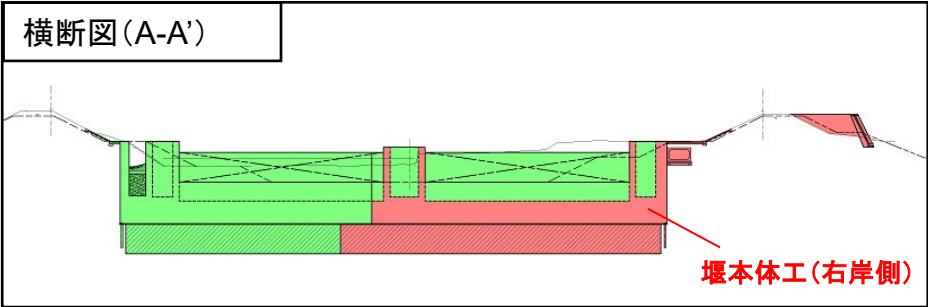
現況の下方井堰



令和7年度
実施内容: 堰本体工(右岸側) 等

事業費: 1,740百万円

※川内川水系における直轄河川改修事業
の令和7年度事業費を記載しております。



■大淀川水系直轄砂防事業(宮崎県西諸県郡高原町、都城市)

○高崎川上流域の大幡川、矢岳川、高千穂川は火山地帯に位置し、地質的にも新しいため、ガリー侵食の発達が著しく、多量の不安定の供給源となっている。また、平成23年1月19日の新燃岳の爆発的噴火に伴う降灰により、土石流の発生の危険性が高まっていることから、砂防堰堤等を整備し、下流河川の河床上昇に伴う洪水被害及び人家、公共施設等に対する直接的な土砂災害を防止する。

【位置図】



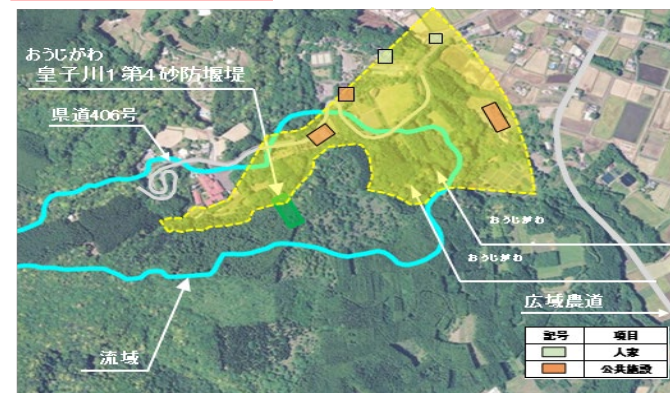
令和7年度
実施内容: 砂防堰堤工 等

事業費: 944百万円

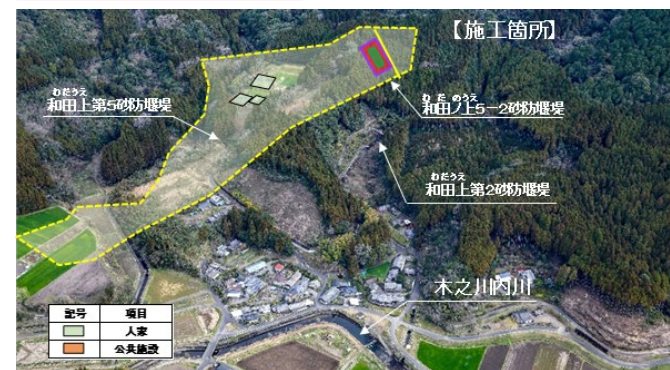
※大淀川水系における直轄砂防事業の令和7年度事業費を記載しております。

■代表実施箇所

おうしがわ 皇子川1第4砂防堰堤

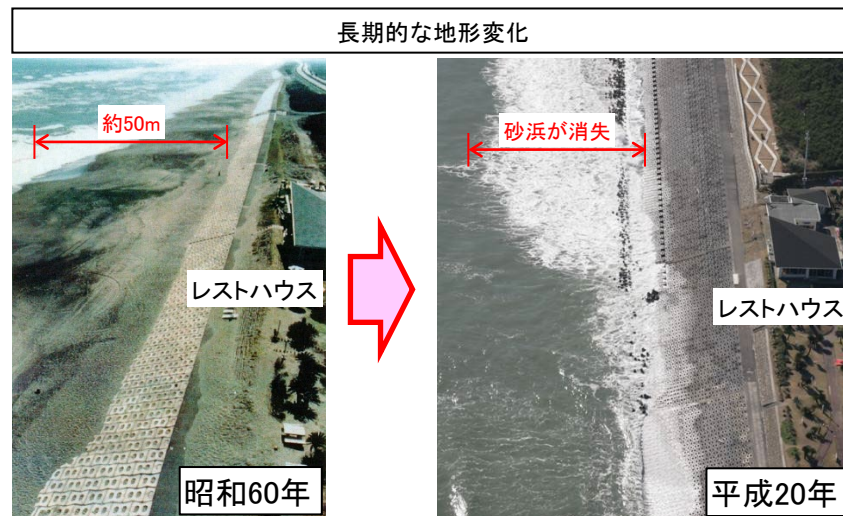


わだのうえ 和田ノ上5-2砂防堰堤



■宮崎海岸直轄海岸保全施設整備事業(宮崎市)

- 宮崎海岸は約50年間で平均約65m(最大94m)の砂浜が侵食され、一ツ葉有料道路目前まで浜崖が迫っており、人家や重要幹線道路への越波など、地域経済への影響は甚大となるおそれがある。
- 波浪による侵食防止対策として、関係機関と連携し、海岸保全施設の整備を実施する。

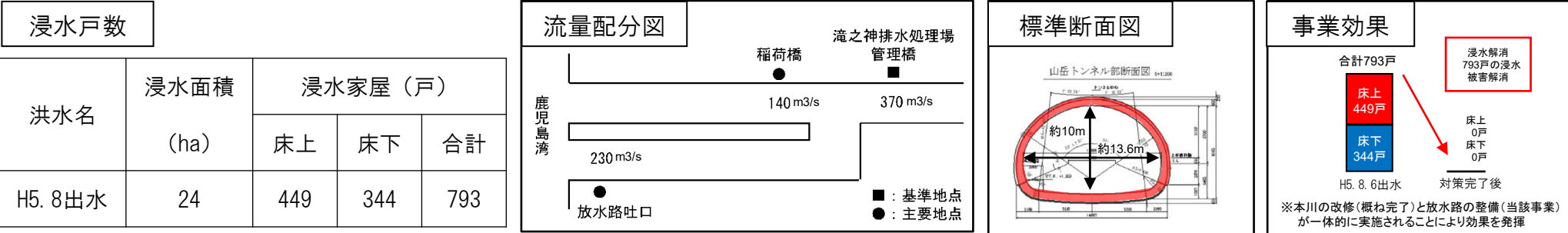


事業費：500百万円

令和7年度
実施内容：突堤 等

■ 稲荷川の下流部は背後に鹿児島市の中心市街地を抱えており、平成5年8月出水では浸水家屋793戸の甚大な被害が発生した。令和6年3月に特定都市河川の指定を行い、本年3月に流域水害対策計画を策定している。

■ 本事業により、放水路等を集中的に実施することで、平成5年8月出水規模の洪水に対して浸水被害解消を図る。



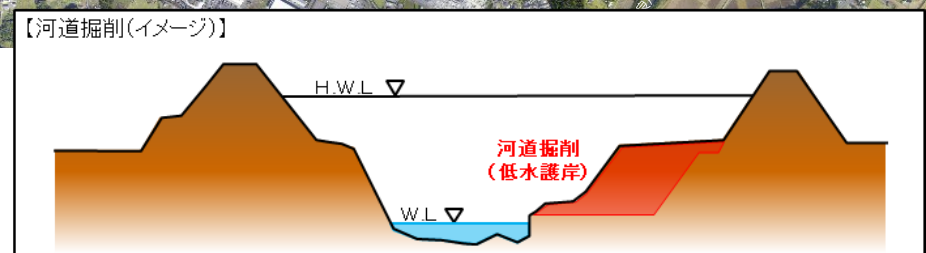
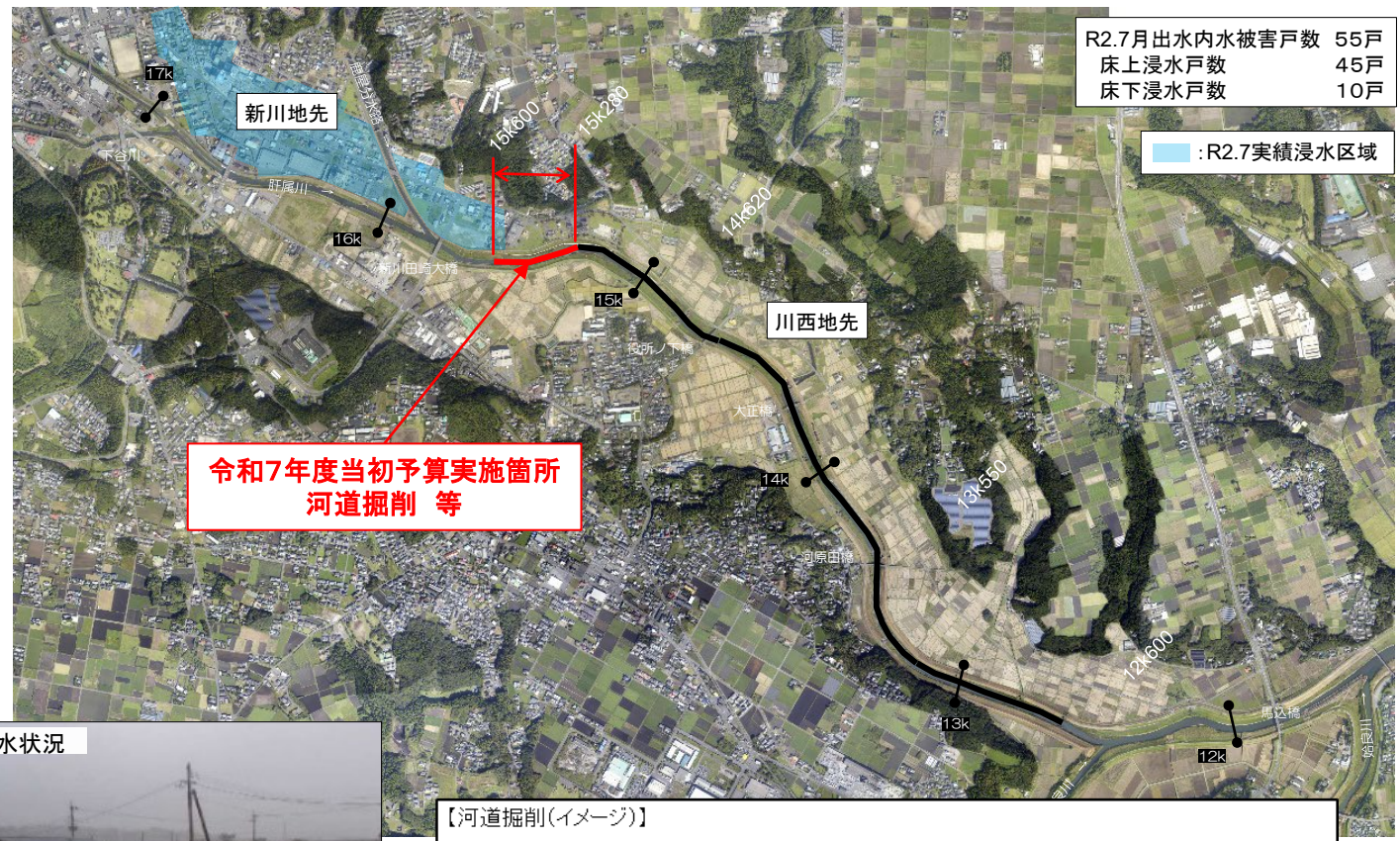
○令和2年7月洪水にて、総合医療病院や消防署、青果市場等が立地し市街化が進んできている、新川地区では内水による家屋浸水が発生。
○河道掘削により本川水位を低下させ、併せて鹿屋市が実施する内水対策(雨水排水路設置等)を実施することで、当該地区の内水被害軽減を図る。



令和7年度
実施内容:河道掘削 等

事業費: 531百万円

※肝属川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。



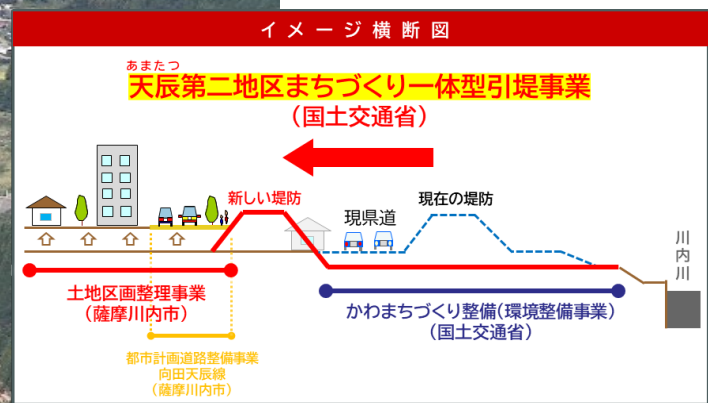
- 川内川では、薩摩川内市を含む下流部において、整備計画の目標流量がHWL超過する区間が存在するため、薩摩川内市のまちづくり（土地区画整理事業等）と一体となり、天辰第二地区の引堤事業を実施している。
- 引堤、河道掘削等を実施することにより、薩摩川内市の治水安全度の向上を図る。



令和7年度
実施内容: 警報局移設 等

事業費: 1,740百万円

※川内川水系における直轄河川改修事業の令和7年度事業費を記載しております。



▲令和7年1月時点の進捗状況

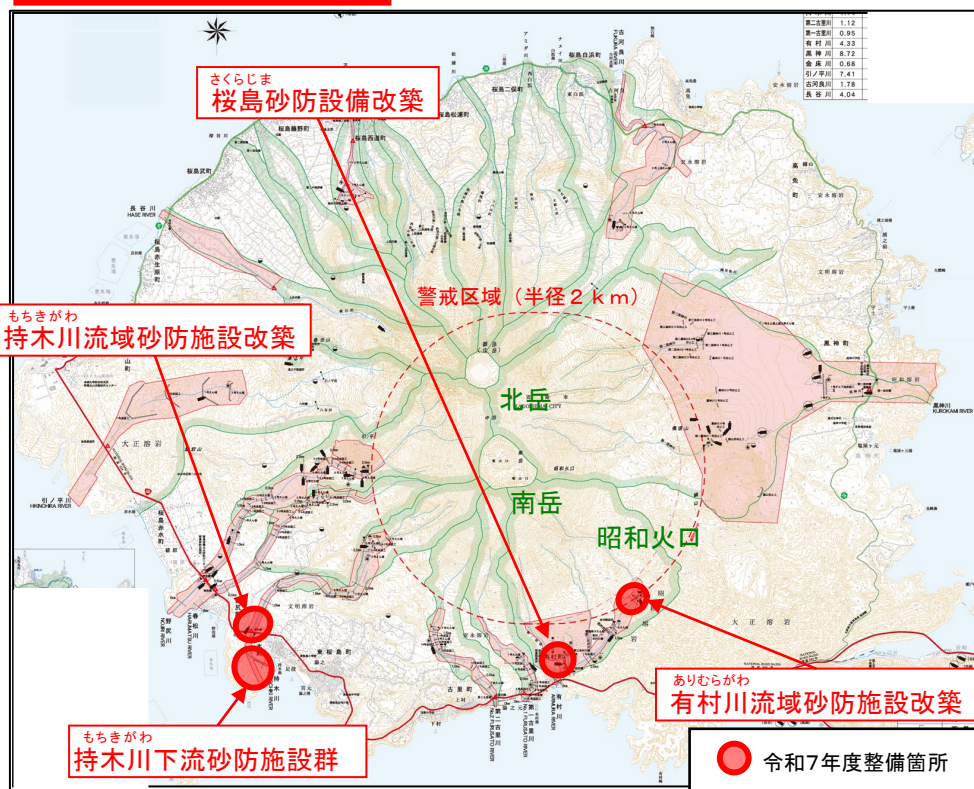
■桜島直轄砂防事業(鹿児島市)

○桜島は、活発な噴火活動が継続しており、多量の降灰により降雨時に土石流が頻発。土石流による被害を防止するため、持木川等において砂防堰堤等を整備。

●令和7年度

実施内容: 砂防堰堤工(補修・補強)、溪流保全工 等

R7実施箇所 計4箇所



事業費: 1,069百万円

※桜島における直轄砂防事業の令和7年度事業費を記載しております。

■代表実施箇所



■ 北部第3排水区は、地区全体が低地であり、沿岸部でもあるため豪雨時、高潮位時には少雨においても浸水被害が発生する。

■ 雨水ポンプ場の整備等を行い、平成29年7月と同規模の降雨(73.5mm/h)に対して床上浸水被害の解消を図る。

事業費：1,600百万円



事業の効果

平成29年7月豪雨と同規模の降雨(73mm/h)に対して、床上浸水被害を解消。

＜被害軽減効果＞

床上浸水戸数(浸水深0.45以上)
147戸 → 0戸

床下浸水戸数(浸水深0～0.45)
518戸 → 231戸

B/C=1.1

■ 整備効果

浸水シミュレーションによる効果検証

整備前

雨水ポンプ場整備後

事業概要

- 事業内容 : 雨水ポンプ場整備 1箇所
- 全体事業費 : 約42億円
- 事業期間 : 令和2年度～令和8年度
- 事業主体 : 中津市

○ 地元状況 : 地元自治会が、ポンプ場の整備等、緊急的かつ効率的な治水対策を要望。